

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.59
3・4月号

10周年からその先へ ずっと続く文化芸術



©Burkhard Scheibe

ピアニスト 若林 顕

—止まらぬ歩み—

今までの10年、これからの10年…

== INDEX ==

Pick Up Artist

さくらプラザ開館10周年記念 若林 顕セルフプロデュース
若林 顕 ピアノリサイタル 出演

若林 顕 (ピアニスト)

Pick Up Event

さくらプラザ 春の芸術祭 2023 出演者特集

柳家 小せん(落語家)、正村 恵(ピアニスト)、中山 結菜(ピアニスト)

連載

【最終回】子ども×文化芸術×私たちの暮らす街
WA! 育つ! 育てる! / 小田 直弥

【最終回】戸塚でたのしむミュージック♪ / 山添 薫

【最終回】誰も真似てはならぬ!? 鈴木啓資の

◎さくらプラザコンサート企画案 / 鈴木 啓資
人は皆 背中で語る… 見返戸塚人





ピアニスト
わかばやし あきら
若林 顕

～自由に思いきり、怖がらずに表現したい～

2023年度最初の主催公演はさくらプラザ開館10周年記念として、ピアニストの若林 顕さんによるリサイタルを開催いたします。ホール天井改修工事を経て、約1年ぶりにさくらプラザに戻ってきてくださいました!さくらプラザではベートーヴェン・ソナタ全曲シリーズ、ショパン・ピアノ作品全曲シリーズなど、自身のプロデュースで意欲的なプログラムに取り組んでいらっしゃいました。今回もセルフプロデュースによるリサイタルで、選り抜かれた名曲たちを演奏していただきます。さくらプラザでの久々の演奏会に向けて、どのような想いで臨まれるのか、お話を伺いました。

—今年8月にさくらプラザは開館10周年を迎えます。振り返ってみていかがですか?

若林 顕(以下、省略)—2013年の秋からさくらプラザで弾かせていただいて、もう10年ですか。おめでとうございます。ひとつのホールでこんなに長くコンスタントに演奏させていただく機会は演奏者としてはなかなかないことだと思いますので、本当に感慨深いですね。

あつという間という感じもありますが、今までのさくらプラザ公演を振り返ると、いろんな内容が思い返されるので、本当に充実した10年だったのだと思います。ソロだけでなく、室内楽や、ピアノでのシンフォニーなども演奏できたことは自分にとって本当に大きな財産だと思っています。

おかげさまで、この10年、モチベーションは20代の頃からまったく変わってなくて、むしろ加速しているくらいです。ただ、作品に対して、若い時には作曲家に共感できなかったことが、今は自然に腑に落ちたりする……、といった変化はあるかと思えます。若い時に弾いた感覚と、そこから少し時を経て弾く感覚というのは、自分の身体の変化に応じて微妙に変わってきます。自分でも工夫もしていきますね。でもそれは演奏者にとっては必要なことで、身体が変化しているのずっと同じ弾き方をするのは無理が生じます。だからと言って弾きやすいように楽をして弾いているということではなく、本来のあるべき姿というか、無駄のない弾き方を追求した結果というか……。若い頃は筋力でまかなえてしまっていた部分を長年培ってきた経験と精神的な充実により、今はだんだんと整理されて、無駄な力を使わずに、いい意味で脱力したシンプルな弾き方になるように、日々探求しています。自分の感覚的な話になってしまいますが、感情表現と表現方法は真逆のところにあるかな、ということを経験してきた気がしています。情熱的に弾きたいと思って感情だけで力を込めようと、客観的に聴いたときにはまったく情熱的ではなく、ただの「力み」になっていたりとか……。もちろん、主観的な部分も非常に大切ですが、客観的な部分とのバランスに尽きると思えます。でもこの10年の間、常にその時その時が1番ベストな状態だと、確信をもって弾いてきました。その時自分の出せるものをすべて舞台上に置いてくる気持ちでいつも臨んでいます。

—さくらプラザ・ホールとの10年間はいかがでしたか?

弾く側としては、響きがまんべんなく、無理なく会場の隅々に行きわたっていく感じになってきたという感触はありますね。木の感じとか、会場に楽器がこなれたというか……。柔らかくなったというか。あとは、人の気配・エネルギーというのでしょうか、この10年で会場にはたくさんの演奏者やお客様が集まってきたわけですから、そういった「気配」というのは残っているんですね。

ホールに入った時に非常に良い10年間を歩んでこられたんだなということが感じられる、そんな雰囲気のあるホールであるというのが私の感想ですね。

この頃、楽器は生き物だな、とよく思うんです。持って歩ける楽器は常に自分の楽器で演奏できますが、ピアノは会場のピアノを使わせていただきます。初めて触れるピアノでも、久しぶりに触れるピアノでも、それぞれに毎回ピアノと気持ちを通わせるというか、本番前にはじっくり楽器と対話するように弾き込んで、楽器と一体となって、一緒に作っていく……。楽器と距離があるがあるとやはり自分のイメージした音で演奏はできませんから。どのピアノにも愛おしさがあり、愛情をもって接することが重要だと思っています。そういう意味では10年間、ずっと弾かせていただけていたのでさくらプラザのピアノはとても親しみもありますし、一番仲の良い楽器と言ってもいいかと思っています。



—さくらプラザ公演でのプログラムについて伺います。

メトネルの「回想ソナタ」もそうですが、ふっと振り返ったような、メランコリックでノスタルジーのある曲想の楽曲を入れつつ、その過去を踏まえた未来へのエネルギーというものもメッセージとして含んでいます。自分としても、夢を持った気持ちを表現したいと思っていて、過去の呪縛から解放されて新しい風がエネルギーをもってゴーッと入り込んでくるようなイメージです。いけないことが取り払われて、自由に思いきり、怖がらずに表現したいと思います。今だからこそそういった想いを入れ込みたい曲たちです。プログラムを考える時は、学術的な理由で整合性が取れるというようなことを最初は考えずに、あくまでも自分で表現したいもの、弾きたいものを取り上げています。その時々で自分とピントが合う作品は違います。「あ、今だったらこれはこういう風に弾きたいな」という、強い想いのある曲は必ずあるんです。そういったラインナップの中で、楽曲のひとつひとつのドラマを大切に、公演の流れに合うよう、ストーリー性を持たせながら組み立てています。そ

うしてできあがったプログラムを最後に見直して、整合性が取れているか、などをチェックして整えていきます。このままで良いと思うこともありますし、少し変更をすることもあります。絶対こうしなきゃいけない、などの決まりはないんです。非常に感覚的と言えば感覚的に決めていますね。曲選びは楽しいです。

「展覧会の絵」は20歳の頃から弾いてきていて、とても思い入れのある曲です。ラヴェル編曲のオーケストラ版はよくテレビなどでも効果音などにも使われていて耳にすることが多いかと思いますが、元々はピアノ曲です。以前にホロヴィッツ編曲版も弾きましたが、今回の公演ではムソルグスキーのオリジナル版で弾かせていただきます。お客様に聴いていただけることを今からとても楽しみにしています。ご存知の通り、この作品はムソルグスキーが画家の友人、ハルトマンの遺作展を歩きながら、そこで見た絵の印象を音楽に仕立てたものです。絵から絵へと歩いている様子を「プロムナード」という前奏曲・間奏曲でつなげています。「展覧会の絵」ですから、音色にも“色”をもたせて弾くのですが、ラヴェル編曲のオーケストラ版で感じるキラキラとした鮮やかな色とは少し違い、オリジナル作品は土着性のある音色で演奏した方が合うな、という印象。泥臭く、たくましい、強いロマンティック性を持った表情があると思います。さくらプラザ・ホールのしっとりとした空間にも合っていると思います。どんな展覧会場なのか、どんな絵が飾っているのか、ピアノ1台で展覧会の様子をどう描けるか、というところを楽しんでいただきたいと思います。

—3月12日には「さくらプラザ 春の芸術祭2023」に鈴木理恵子さんとデュオでゲスト出演していただきますね。こちらのイベントは、クラシック好きの方も、初めてクラシックを聴く、という方もいらっしゃるかと思います。

このイベントには以前も出演させていただきました。お客様がとても活気にあふれていて、純粋にイベントを楽しんでいる様子が印象的でした。普段の「コンサート」とは少し違った雰囲気ではありますが、それでも舞台の上での演奏に対する姿勢は同じです。実は私と鈴木(ヴァイオリニストの鈴木理恵子さん)で幼稚園でのアウトリーチにはよく行きます。とても好きな時間です。お客様は子どもたちですから、それはそれは元気です(笑)。座って聴くのがごく通常のコンサートですけど、幼稚園ではみんな動き回ったり、弾いているときに近くまで寄ってきたり、ピアノの中のをぞき込んだりしてね。私は全く気にならないし、むしろ微笑ましく見ています。子どもたちを見ていて思うのは、演奏中に騒いでいたり、動き回っていたりしたからと言って、その子に何の感情も残っていないわけではないということです。鑑賞する時間に元気いっぱいだった子が、私たちが帰る時に一生懸命に感想を言ってくれたりするんです。きっと、感じたままに聴いてくれているのだと思います。子どもたちの前で演奏するのは、「失敗したらどうしよう」とか、そういった不要なプレッシャーが全くなく、気負わずに素直な気持ちで集中してピアノに向かうことができます。どんなコンサートでも本当はそういう姿勢で臨まなくてははいけないんです。子どもたちに限らず、一般の大人のお客様にも、気持ちを楽にして、映画を観るような感覚で、音楽のことを分かる・分からないではなく、感じたままに聴いてほしいです。何も構えずに聴いてくれることはすごく嬉しいことですね。そういう意味では、アウトリーチや、この「春の芸術祭」といったイベントでの演奏は、音楽家としての姿勢の原点に戻る、大切な機会ですね。20分という短い時間ですが、お客様の反応も含めて楽しみです。

1年半前から飼われているわんちゃんとの音楽生活について教えてもらいました!



わんちゃん(男の子)ありきの生活になっています。日常でもレストランやカフェに入ろうとする時は一緒に入れるところを自然に選んでしまっているんです(笑)。お散歩も長い時間行きますし、時間にメリハリができましたね。無駄に多く練習をしないことも大事である、ということを感じさせてくれました。ピアノの練習をしている時も静かに聴いて待っていてくれます。寝ているのかもしれないけれど、演奏をやめると、パッとこちらを見たりして。わんちゃんを飼い始めてから練習中に気を付けるようになったことがあるんです。それは、彼が嫌がる音を出さないこと。すなわち、イライラしていたり、焦ったり、怒ったりしたときの音・音色ですね。全部気付かれちゃいますね!でもそれは彼がいてもいなくてもやってはいけないことなので常に気を付けてはいるんですけど、やっぱりひとりで練習していると気が付かないときもあるんですよ。そういうダメな気配になると、バタバタバタバタと走ってきたり、逆に「もう部屋から出して」って感じになって、「わん!」と吠えたりとか。良い状態で弾くと静かに座って聴いてくれるので、もうこのデータは明らかです(笑)。そういうところでは、非常に勉強になっています。どうしてうまくできなかったのかと冷静に考えて、丁寧にさらってみたりすると、なんてことないところにヒントがあったりする。音を出す時に、以前より頭を使うようになりましたし、より大事に練習するようになりました。

(取材・文・構成/山上 由布子)

若林 顕 Akira Wakabayashi

日本を代表するヴァルトゥオーソ・ピアニスト。東京藝術大学、ザルツブルク・モーツァルデウム、ベルリン芸術大学で研鑽を積む。20歳でプリーニ国際ピアノ・コンクール第2位、22歳でエリーザベト王妃国際コンクール第2位の快挙を果たし、一躍脚光を浴びた。その後ニューヨーク・カーネギーホール(ワイルド・リサイタル・ホール)の「鮮烈なリサイタル・デビュー」を飾り、N響やベルリン響、サンクトペテルブルク響といった国内外の名門オーケストラやロジェストヴェンスキーら巨匠との共演、国内外での室内楽やソロ・リサイタル等、現在に至るまで常に第一線で活躍し続けている。リリースした多くのCDがレコード芸術・特選盤となり、極めて高い評価を受け続けている。2014年、2016年にサンクトペテルブルク(大ホール)、2020年に東京芸術劇場コンサートホールでソロ・リサイタルを行い、大成功をおさめた。また、自身では3回となる「ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ全曲シリーズ」を2017年に完結し、2018年より2022年まで「ショパン: ピアノ作品全曲シリーズ」を行った。第3回演出音楽賞、第10回モービル音楽賞奨励賞、第6回ホテルオークラ賞受賞。



©Burkhard Scheibe

さくらプラザ開館10周年記念
若林 顕セルフプロデュース
若林 顕 ピアノリサイタル
4/22(土) 14:00開演
会場: ホール
出演: 若林 顕(Pf)

好評発売中

↑公演HPへ

*詳細は裏表紙をご覧ください。



さくらプラザ 春の芸術祭2023

開催迫る、春の芸術祭。出演者からの声をお届けします！



前号「情報誌SAKURA Vol.58 (1・2月号)」に引き続き、今回も「さくらプラザ 春の芸術祭2023」の特集をお届けします！この芸術祭は、一般公募団体だけでなく、第一線で活躍するアーティストや、これから増々期待される若手アーティストなど、たくさんの皆様と共に作り上げるイベントです。今回は、3月10日(金)に開催される「さくらプラザ寄席 柳家小せん独演会」に出演する柳家小せん師匠、3月12日(日)に開催される「さくらプラザ 春の芸術祭2023 ホールイベント」で司会を務める正村恵さん、推薦アーティストとして出演する中山結菜さんにお話を伺いました！



柳家 小せん(落語家)
戸塚出身。1997(平成9)年2月 鈴ヶ舎馬桜に入門。1997(平成9)年4月 前座となる。前座名「わか馬」。
2000(平成12)年6月 二つ目昇進。2006(平成18)年1月 鈴ヶ舎馬風門下に移門。
2010(平成22)年9月 真打昇進「五代目・柳家小せん」を襲名。

—さくらプラザ寄席での演目はすでに決めていらっしゃるのですか？

柳家小せん(以下、略)一候補は考えています。今回は二席申し上げる予定ですので、その組み合わせも含めて何通りかのパターンを想定しておき、当日の様子を見ながら決めるつもりですが.....結果、事前には想定しなかった噺を演ずることもしばしばあります。ネタ選びの判断材料としては、持ち時間と番順、お客さまの雰囲気、笑いを求めているのか、じっくりと聴きたいのか、落語に詳しいのか、それほど聴き慣れていないのか、年齢層や男女比も関わってきますね。こういったことを前の方の高座を見て、あるいは、自分が上がってマクラを振りながら察知して決めていきます。

—落語家になろうと思ったきっかけを教えてください。

特に大きなきっかけはないのですけれど.....ただ、落語が好きだったということにつきますかね。小学生の終わり頃にテレビやラジオの放送に興味を持って、はじめは親にせがんで都内の寄席に連れて行ってもらいました。中学に上がってからは月1くらいで単身、時には友人を伴って都内に足を運び、高校、大学と進むに連れてその頻度が上がっていきました。自ら演じようという思いは起こさずにいたのですが(大学時代も落語研究会には属さず、中学高校から続けていた吹奏楽部に所属)、大学卒業・就職が見えてくる段階になって、自分は何がしたいのか、どうなりたいかを内省するうちに「好き」という思いにすぎってこの世界に飛び込んでしまった、というところでしょうか。

—「生」で落語を体験することの楽しさはどのようなところにありますか？

同じ場所・時間を共有するということが大きいと思います。特に落語は、前述のように演目選びに影響を与えたり、同じ噺をするにしても反応によって演じ方が変わってくることもあります。舞台と客席が双方向で影響しあって、一緒に作り上げていくという空気感。これは「生」ならではの楽しみで、うまくいった時には他ではなかなか味わえない「快感」を得られると思います。

—「落語」の未来について、例えば100年後の落語界は今と変わらずにあり続けているのでしょうか？

大きな質問ですね.....。100年後、なくなっているとは思いません。今とだいぶ形は変わっているかもしれませんが。現代でやるべきことは、今のお客様に楽しんでもらえるように勤めること、これに尽きると思います。先人の芸を見て「いいな」「面白いな」と思ったことを同世代やもっと若い人に伝える、この積み重ねで今までも、これからも続いていくのではないのでしょうか。古い型や考え方を「守る」部分もあれば、時代に合わせて「変える」ことも必要でしょう。たくさんの芸人がそれぞれのセンス、考え方で変えたり守ったり、その中で淘汰されるものもありますが、いいものは残っていくでしょう。

—今回はお弟子さんもご一緒にご出演されますね。若いお弟子さんたちをどのように指導されていますか？

前項の質問で答えたことを、実践してくれる存在になればいいな、と。先人から教わったこと、自分が「いいな」と思うことは、できるだけ丁寧に伝えるにはしています。ただ、私のコピーを作っても仕方がないので(そんなことは土台無理な話ですし無意味なことなので)、自分の力で高みに上げられるための基礎は仕込んで、その先の方向性はあまり細かいことを押し付けないように気をつけています。

—戸塚区のお客様、また、今回初めて落語を聴く人にメッセージをお願いします。

事前の学習は必要ありません。初めてでも、予備知識がなくても(小学生の頃の自分がそうだったように)楽しんでもらえるように心がけて演じています。ただ、ちょっと前のめりに「どんな世界なのかな」「こんな状況なのかな」と想像しながら聴いていただくと、より楽しめると思います。落語は、噺家が言葉や仕草、表情で発信した情報をお客さまが頭の中で想像力によって膨らませることで、はじめて成立するので。難しいことを考えず、とにかく気楽に楽しんでいただければ幸いです。

—一緒に、いい公演を作り上げましょう。

—2023年8月に開館10周年を迎えるさくらプラザにもメッセージをお願いします。

もう10年になりますか.....。初期の段階からいろいろと関わらせていただけて、戸塚で生まれ育ったものとしてこんな有難いことはありません。アートとか文化事業なんというのは、一朝一夕でどうにかなるものではないので、10年かけて蒔いた種、これから咲いたり実ったりするものもたくさんあるでしょう。今後、ますます面白いことが広がっていくと思われま。微力ですが、出来ることはなんなりと、協力させていただければ嬉しいです。

取材・構成／山上由布子



正村 恵(ピアニスト)

横浜市出身。神奈川県立柏陽高等学校を経て、国立音楽大学演奏学科鍵盤楽器専修(ピアノ)および鍵盤楽器ソリスト・コースを修了。同大学大学院を首席にて修了、最優秀賞およびクロイツァー記念賞を受賞。エフエム戸塚「戸塚井戸端会議。」パーソナリティ。

—自己紹介をお願いします！

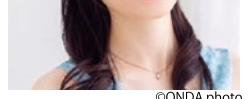
横浜市出身。神奈川県立柏陽高等学校を経て、国立音楽大学演奏学科鍵盤楽器専修(ピアノ)および鍵盤楽器ソリスト・コースを修了。同大学大学院を首席にて修了、最優秀賞およびクロイツァー記念賞を受賞。エフエム戸塚「戸塚井戸端会議。」パーソナリティ。

—正村さんから見たさくらプラザはどのような印象でしょうか？

さくらプラザの皆さんに初めてお目にかかったのは、昨年春にパーソナリティとしてご挨拶に伺った時でした。館長はじめ、スタッフの皆さんフレンドリーでした。この戸塚で色々な工夫を凝らして文化芸術の振興に尽力されているのを SNS 等で拝見しています。素敵だなと思いました！また、駅から徒歩1分足らずでアクセスできる場所にあるということも便利だと思います。いつかわたしもお借りして、何かイベントやコンサートなども企画してみたいです！

—戸塚区の方々へのメッセージと、春の芸術祭2023への意気込みをお願いします！

この度、3月12日(日)に行われます「春の芸術祭2023」において、恐れ多くも司会とオープニング演奏を務めることになりました！さくらプラザのホールでピアノを弾くのは初めてのことで、どんな響きなのか今からワクワクしています♪そして、今回出演される皆さんの多種多様な演奏が舞台袖から聴けるのも、今から楽しみです！出演なさる皆さんの魅力をMCで引き出せるように精一杯努めますので、戸塚在住の皆さんはもちろんですが、多くの皆様のご来場をお待ちしております！



中山 結菜(ピアニスト)

第75回全日本学生音楽コンクールピアノ部門高校の部全国大会第3位。チェンバロでは第33回国際古楽コンクール<山梨>鍵盤楽器部門にて第3位並びにクーブラン賞を受賞。現在桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻、チェンバロ副専攻1年に在学中。

—自己紹介をお願いします！

中山結菜(以下、略)一横浜生まれ横浜育ち、現在桐朋学園大学1年の中山結菜です。大学ではピアノとチェンバロを主に勉強し、フォルテピアノやクラヴィコードも少しずつ勉強しています。好きな音楽家は「ドイツ3大B」と呼ばれるJ.S.バッハ、ベートーヴェン、ブラームス、そしてチェンバロを好きになるきっかけとなったルイ・クーブランです。好きなピアニストはルーマニア人のラドゥ・ルプ(Radu Lupu)で、虚飾がなく率直で、作品と真摯に対峙している彼の音楽が大好きです。音楽以外の趣味は散歩やお城散策、戦国武将の像を見に行く事です。

—中山さんは2019年まで「さくらプラザ特待生」に登録をいただいたり、2021年に当館で開催された毎日新聞社主催の「全日本学生音楽コンクール」ピアノ部門高校生の部で3位入賞したり、ご縁がありますね。さくらプラザでの想い出を教えてください！

さくらプラザはピアノのコンクールや試演会、録画撮影などで何度も演奏し、沢山の思い出があります。天井が高く、程よい大きさのホールと至高のスタインウェイ社のピアノが素晴らしく、大好きなホールです。また、さくらプラザ特待生として観賞させていただいた寄席がとても印象に残っています。演者が客席まで降りて芸を披露したり、お客さんが笑っていたりと普段のクラシック音楽のコンサートとは雰囲気が大きく異なり、和気あいあいとしていました。さくらプラザはホールだけでなく、リハーサル室も多くの区民の方々が利用している印象が強いです。複数人で集まってリハーサルをしていたり、講座が開かれ学びの場であったりと地域の方々との息の場であること間違いのないと思っています。

取材・構成／小野良

—自己紹介をお願いします！

正村恵(以下、略)一はじめまして！ピアニストの正村恵と申します。普段は、テーマパークやホテルなど様々な場所で、ピアノやオルガンを弾いて活動しております。小学生の頃からラジオをよく聴いており、「わたしもいつかラジオをやってみたいなあ」という漠然とした思いがどういいうわけか繋がりまして、2021年11月より「エフエム戸塚」のパーソナリティに就任しました。大好きな音楽と共に、リスナーの皆さんが楽しめる番組作りを心がけています♪

—ラジオのパーソナリティを担当され1年近くになりましたね。改めて戸塚にはどのようなイメージを持たれましたか？

私は戸塚区民ではありませんが、20年以上この戸塚近辺に住んでいます。とはいえ、エフエム戸塚のパーソナリティに就任するまでは、恥ずかしながら訪れたことがほとんどありませんでした。パーソナリティに就任してから、戸塚の街について、少しずつわかってきたところですよ！

私が担当しています「戸塚井戸端会議。」という番組で、戸塚区の行政の方々をお招きして色々なお話を伺っているのですが、皆さん本当に気さくな方々ばかり。わたしが知らなかった戸塚の新たな一面に気づかせてくれました。昨年秋には、戸塚駅地下1階に期間限定で設置されたストリートピアノを弾かせていただきました。あつという間にたくさんの人が足を止めて聴いてくださり、ありがたくも「もっと聴いていたかったわ〜！」などのお声を頂戴しました。住んでいる地域の方々もフレンドリーな方が多い印象ですね。

—正村さんから見たさくらプラザはどのような印象でしょうか？

さくらプラザの皆さんに初めてお目にかかったのは、昨年春にパーソナリティとしてご挨拶に伺った時でした。館長はじめ、スタッフの皆さんフレンドリーでした。この戸塚で色々な工夫を凝らして文化芸術の振興に尽力されているのを SNS 等で拝見しています。素敵だなと思いました！また、駅から徒歩1分足らずでアクセスできる場所にあるということも便利だと思います。いつかわたしもお借りして、何かイベントやコンサートなども企画してみたいです！

—戸塚区の方々へのメッセージと、春の芸術祭2023への意気込みをお願いします！

この度、3月12日(日)に行われます「春の芸術祭2023」において、恐れ多くも司会とオープニング演奏を務めることになりました！さくらプラザのホールでピアノを弾くのは初めてのことで、どんな響きなのか今からワクワクしています♪そして、今回出演される皆さんの多種多様な演奏が舞台袖から聴けるのも、今から楽しみです！出演なさる皆さんの魅力をMCで引き出せるように精一杯努めますので、戸塚在住の皆さんはもちろんですが、多くの皆様のご来場をお待ちしております！

取材・構成／小野良

—自己紹介をお願いします！

中山結菜(以下、略)一横浜生まれ横浜育ち、現在桐朋学園大学1年の中山結菜です。大学ではピアノとチェンバロを主に勉強し、フォルテピアノやクラヴィコードも少しずつ勉強しています。好きな音楽家は「ドイツ3大B」と呼ばれるJ.S.バッハ、ベートーヴェン、ブラームス、そしてチェンバロを好きになるきっかけとなったルイ・クーブランです。好きなピアニストはルーマニア人のラドゥ・ルプ(Radu Lupu)で、虚飾がなく率直で、作品と真摯に対峙している彼の音楽が大好きです。音楽以外の趣味は散歩やお城散策、戦国武将の像を見に行く事です。

—中山さんは2019年まで「さくらプラザ特待生」に登録をいただいたり、2021年に当館で開催された毎日新聞社主催の「全日本学生音楽コンクール」ピアノ部門高校生の部で3位入賞したり、ご縁がありますね。さくらプラザでの想い出を教えてください！

さくらプラザはピアノのコンクールや試演会、録画撮影などで何度も演奏し、沢山の思い出があります。天井が高く、程よい大きさのホールと至高のスタインウェイ社のピアノが素晴らしく、大好きなホールです。また、さくらプラザ特待生として観賞させていただいた寄席がとても印象に残っています。演者が客席まで降りて芸を披露したり、お客さんが笑っていたりと普段のクラシック音楽のコンサートとは雰囲気が大きく異なり、和気あいあいとしていました。さくらプラザはホールだけでなく、リハーサル室も多くの区民の方々が利用している印象が強いです。複数人で集まってリハーサルをしていたり、講座が開かれ学びの場であったりと地域の方々との息の場であること間違いのないと思っています。

—戸塚区の方々へのメッセージと、春の芸術祭2023への意気込みをお願いします！

音楽は「時間芸術」と呼ばれることがあります。お客様からいただいた時間を、ふと思い出に残るような宝物の時間にできたらと思います。3月12日(日)、大好きなホールで演奏できる事をとても楽しみにしています。是非聴きにいらしてください！

取材・構成／小野良

さくらプラザ春の芸術祭2023関連事業
さくらプラザ寄席 柳家小せん独演会
3/10(金) 14:00開演

会場：ホール
出演：柳家小せん、柳家あお馬(二つ目)、柳家小じか(前座)

*詳細は裏表紙をご覧ください。

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民...アートに溺れる3日間!
さくらプラザ 春の芸術祭2023
ホールイベント
3/12(日) 14:00開演

会場：ホール

※正村さん、中山さんの出演時間や「春の芸術祭2023」に関する詳細はHPをご覧ください。

誰も真似てはならぬ!?! 秘 さくらプラザ コンサート企画



静岡県島田市出身。東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。リスト音楽院修士課程首席修了。東京音楽大学大学院博士後期課程修了。トホナーニ直系の流れを汲む日本人唯一のトホナーニ研究者。現在、ピアノ、アンサンブル、指揮、研究および執筆と様々な活動を続ける傍ら、後進の指導にも当たっている。奈良教育大学准教授。

ピアニストで指揮者の鈴木啓資さんがさくらプラザで開催するならこんな企画がいい!とアイディアを綴っていく連載コーナー。いつか実現できる日がくるかも!?!アーティストの頭の中を覗いてみましょう~!

この連載もいよいよ6回目である。これまで様々なコンサート案を執筆してきたが、最終回ということで物寂しさを感じながら筆を執っている。思い返してみると、ホールにおける映像と音楽のコラボレーション、立体音響を意識したコンサート、和と洋の融合など、実現できるのかわからないようなコンサート案も含めて自由に書かせていただいた。

さて、今回はどのようなコンサート案にしようかと考えたが、ピアノに特化したコンサートにした。ピアノを使ったコンサートは数多く行われているが、今回は4台のピアノを用いたコンサートを考えてみる。

さくらプラザのホールにはコンサート用のグランドピアノが1台常設されているが、そこにグランドピアノをさらに運び込んで実施する。4台のピアノによるコンサートは比較的珍しいものではあるが、行われていないわけではない。しかしほとんどの場合、そのようなコンサートは1000席を超えるような大きなホールで行われることが多い。その理由の1つは、ピアノの台数を増やせば増やすほど莫大な経費が必要となるので、収入もある程度計上しなければならないからであろう。しかし、マイクなどの音響機器を使わないクラシック音楽においては、一般的には大きなホールになればなるほど、聴こえてくる音が持つ迫力は減っていき、臨場感がなくなっていく傾向にあるように感じる。もちろん大きなホールで聴く良さもあるのだが、451席というちょうど良い席数を有するさくらプラザのホールでこのコンサートを行ってみたい。

4台のピアノがあれば様々な曲を演奏できる。ピアノ独奏では味わえない重厚な響きをいかすことを考えると、音数が多いオーケストラ作品を編曲したものを演奏するのが良いのではないだろうか。もしくは4台ピアノのための曲を作曲家の方に委嘱しても良いかもしれない。グランドピアノは1台1台に個性があり、たとえ同じメーカーであっても音色が異なるので、4台集まったときにどのような音をさくらプラザのホールに響かせられるのか楽しみである。このコンサートが実現すればピアノの迫力を体感できるものになるだろう。

今回のコンサート案を含め、実現の可能性など考えずに自由にコンサート案を書いてきたが、お楽しみいただけただろうか。この連載をお読みいただいた皆様、また実現の可能性にとられず自由な発想をお許しいただいたさくらプラザの皆様へ感謝を申し上げ、この連載の幕を閉じたいと思う。

最終回 子ども × 文化芸術 × 私たちの暮らす街 WA!育つ!育てる!

小田 直弥

【ふむふむ、WA!】と驚くような、【輪】になって繋がっていくような……、文化芸術と街の視点で【子育て】を考える連載。街・家庭で育つ子どもたちを大人はどう育てていくか。

Vol.6 「最高の学び」の環境づくり

「遊びは最高の学び!」
「面白〜!」を原動力に、自分で学び、育っていくと考えています。確かに、大人が教えることによって学びのきっかけは提供されますが、それを自身の学びとして吸収し、さらに広げたり、深めたりするのは子ども自身です。大人が教えた通りには子どもは育ちません。それは、やはり子ども自身が学びの主体だからでしょう。そうした学びの主体である子どもが、自らの学びを十分に発揮するためには、子どもも「面白〜!」を刺激できるような環境づくりが大切です。

私からの提案として、大人にこそ「面白〜!」を原動力とした遊びをしてほしいと考えています。大人は子どもも生活する環境の一部です。何かに夢中になり、遊んでいる大人が近くにいると「なんだか面白そう!」と、大人の「面白〜!」が子どもにも伝播することがあります。そうしたとき、「一緒にやってみよう?」と誘い、「面白〜!」をシェアしてあげてください。そこで子どもは「世界ってこんなに面白〜!」とわくわくするでしょう。

地域における文化芸術活動を支える公共ホール等の施設は、大人・子どもを問わず、地域の人の「面白〜!」を応援する役割を担っているとともに、施設スタッフの感じる文化芸術活動の「面白〜!」を地域に提案していく役割も担っています。今年で10周年を迎えるさくらプラザを地域の1つの拠点として、遊び、面白がっている大人が増えていくこと、これこそ子どもにとつての「最高の学び」の環境づくりであると提案し、本連載を閉じたいと思います。

小田 直弥
弘前大学教育学部音楽教育講座助教。東京学芸大子ども未来研究所学術フェロー。ヤマハ株式会社によるエジプト国初等教育への日本型音楽教育導入事業(非認知能力の測定手法検討)に参加。『きかんしゃトーマスでつなげる非認知能力子育てブック』(共著、東京書籍)。

最終回 戸塚でたのしむ ミュージック♪ Vol.6 『またどこかで会えたら』

今回で最終回となるこのコラム。全6回を通して、戸塚での催しや音楽、そして子育てと地域がどう関わっていくのかをお伝えしてきました。

戸塚駅近辺では、ベビーカーに乗った可愛い赤ちゃんをたくさん見かけます。マスクで表情の見えない世界ですが、それでもすれ違う人の目がほころぶのが分かるほど、この街は優しさに溢れていると感じます。このコラムを担当したことで、少し足を運べば、人が集う施設や、ママサークルが戸塚にもあることが再確認できました。また、多彩な方々がこの街を支え、彩っていることも、この「情報誌SAKURA」を見ることで発見することができました。“子育て”を“孤育て”にせず、人と地域で見守っていく……。子育てを頑張るお母さん、お父さんたちのため、未来を担う子どもたちのため活動している方もたくさんいることが分かりました。

さくらプラザでの夏のイベント「さくらプラザオープンデー」では、音楽を様々な形で表現する方々との出会いも新鮮でした。私が担当したりトミックイベントでは、感じた音を体や声ですぐに表現する本能的なものを大切にしながらも、音楽の紡ぎが個々の表現を1つにしてくれる幸福感を味わうことができました。「あー楽しかったね!」と喜び、体が嬉しくなっていく瞬間を、伝えることができました。ご来場くださった皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。ありがとうございました。

音楽に触れて豊かな感性を育み、その優しさが地域に根付いていって欲しい……。戸塚もそんな地域であってほしいと思います。子どもの声は宝物です。遊び場が減りつつある現代、子どもたちが大声で笑って思い切り遊べる場所を作るために、私もできることを1つずつしていきます。まずは、コミュニケーション。便利な世の中になった分コミュニケーションが希薄になり、コロナ禍でさらにその分断は進んでしまいました。しかし、コロナ禍が始まって3年が経ち、イベントも再開されてきています。私自身、音楽を通して五感で感じるような人との触れあいをしたときに、全身から湧き出るパワーを感じることができて、改めて「やっぱり私は人と人を音楽で繋げていきたい!」と再確認することができるのです。

人との触れ合いは一番近くにいる親子の関係から始まりますね。赤ちゃんが笑う時、ママも笑っている。そんな風景を見て「よかった……」と誰かと誰かが想いあえる地域になれるよう、これからもたくさんの人に出会い、繋げていきたいと思います。1年間、このコラムをお読みいただきありがとうございました。

また、戸塚のどこかで会いましょう。

山添 薫
二児の母。趣味はサッカー観戦。戸塚区で生まれ育ち、幼稚園教諭時代を経て、結婚後はリトミック研究センター認定教室「まんまるリトミック教室」を主宰。「戸塚mama」創設メンバー。ホームページ: <https://manmarumusic.crayonsite.info>



人は皆 背中語る… 見返戸塚人

其之五十七

戸塚の魅力あふれる方々をご紹介します。コーナーです。



Hamako river side店舗外観

リバーサイド Hamako river side 前田 希美さん

美味しいおうどんを食べに来てくださいな!



顔見世

一お店の紹介をお願いします。
2000年に、現在の場所に「浜小町」という名前でお店をオープンしました。以前は洋食をメインに提供していたのですが、今は「ハマコ」に改名して、うどん専門店として営業しています。私はここで15年以上働いています。

一前田さんは主に調理を担当されているのですか?
「私が」というより、スタッフ全員が調理担当になりますね。なので、うちの店には専任の調理担当がいらないんです。最初の頃は飲食店の経験が短い女性スタッフが多かったのもあって、自然とみんなと一緒に調理をするのがお店のスタイルになりました。異なるスキルがあったからこれまで色々なジャンルにも対応してこられました。今でもスタッフ同士と一緒に食べ歩きに行き、「これ美味しいね!」ってなると、試作して、上手くできたらメニューに加えるということもあり、そんな柔軟さも、うちのスタイルならではの良さです。

一お店のこだわり、大事にしていることは何ですか?
うどんの材料は粉、水、塩とシンプルな分、環境や工程のちょっとした差が食感に出してしまうので、日々のブレをできるだけ無くすように気を付けています。その日の気温や湿度に合わせて水や塩の量は調整しますが、それでも思うように仕上がらないこともあります。そういうときに頼りになるのは、粉を送ってくださっている讃岐地方の「うどんのプロ」ですね。困ったときにはアドバイスをいただいています。

つゆは個人的に関西の出汁感が前に出たものが好きですが、あえて馴染みのある関東の醤油を使っています。カツオからじっくりと取った出汁と、きりっとした醤油を合わせて「関東の醤油を使っているのに飲みやすいつゆ」を目指して作っています。

一今後の夢や目標、やりたいことを教えてください。
まだまだ先の目標ですが、この先うどんの技術をもっと極めて、いつか古民家で提供できたらいいねと店長と話しています。今の店よりももっと和の雰囲気を出して、知人や友人を連れて行きたくなるようなお店が理想ですね。きつと「宿場町 戸塚」の知名度も味方してくれるんです。

一戸塚の皆様へメッセージをお願いします。
お陰様でこのお店は、戸塚に住んでいる方、働いている方たちに支えられて長く続けていくことができました。例えば、明治学院大学の学生が卒業しても食べに来てくれることもありますし、近隣の方との結びつきも強いと思います。こういった縁を大切にしながら、これからもたくさんの人にご来店いただけるよう頑張ります。



鶏玉天うどん

戸塚人に逢いに逢おう!

リバーサイド Hamako river side
www.hamako-riverside.com
TEL: 050-3155-3101
住所: 横浜市戸塚区上倉田町 507-3 吉倉橋ビル1F
営業時間: 11:00~15:00※当店の間はランチのみ
定休日: 日曜日
※予告なくお休みが変更になる場合がございます。

次号の戸塚人は……?

この後ろ姿から何処のどなただろうと想像してみてください。次号では見返りポーズでお顔を公開します!

チケットはお電話 (045-866-2501) でご予約いただけます。(一部除外あり)
 詳細はチラシをご覧ください。出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
 ※学生券をお買い求めの際は学生証を必ずご提示ください。

春の芸術祭 2023

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民…アートに溺れる3日間

ホール出演 **ギャラリー展示** **マルシェ出店**

詳細はチラシ、もしくは当館HPをご覧ください。
 春の芸術祭HPへ

- 3/10** 全 **ギャラリー** 13:00~17:00
- 3/11** 土 **ギャラリー** 10:00~17:00 **マルシェ** 11:00~14:00
- 3/12** 日 **ホール** 14:00~16:00 **ギャラリー** 10:00~16:00
- マルシェ** 11:00~14:00 ※「春の芸術祭」に関する詳細はP.4-5をご覧ください。

関連事業 **手ぶらで楽しむはじめての切り絵体験** **満員御礼**
 ～戸塚の花・桜をモチーフにした色紙作品～

講師:楠 昭(きりえ作家・神奈川きりえの会会員・一級建築士)
 会場:練習室4
 3/4(土)10:00~12:00 定員10名
 参加費:500円(材料費・道具レンタル料含む)

関連事業 **さくらプラザ寄席 柳家小せん独演会** **好評発売中**
 出演:柳家 小せん、柳家 あお馬(二つ目)、柳家 小じか(前座)

会場:ホール
 3/10(金)14:00 休憩なし・約90分
 全席指定 一般1,000円

関連事業 **さくらプラザアートマネジメント講座15 大人のためのワークショップ** **満員御礼**
 ホールの舞台裏を覗いてみよう!バックステージツアー

会場:ホール
 3/10(金)10:00~11:30頃
 参加費:無料 定員6名

関連事業 **さくらプラザアートマネジメント講座16 大人のためのワークショップ** **申込受付中**
 あこがれのレセプションistになってみよう!

講師・協力:株式会社ヴォオトル
 会場:リハーサル室
 3/10(金)10:30~16:00頃
 参加費:無料 定員7名

関連事業 **第18回さくらプラザ待生ミーティング (公開試演会)**
 会場:リハーサル室

3/11(土)11:00~13:00頃 ※終了時間は前後する場合がございます。
 定員30名 入場自由・予約不要 ※混雑時入場制限を行います。

さくらプラザ開館10周年記念 若林 顕セルフプロデュース
若林 顕 ピアノリサイタル **好評発売中**

出演:若林 顕(ピアノ)

会場:ホール
 4/22(土)14:00
 全席指定 一般 3,000円/横浜市民 2,700円/学生 1,000円

前橋 汀子 珠玉の名曲集2023 in 戸塚 **まもなく予約開始**

出演:前橋 汀子(ヴァイオリン) 他

会場:ホール
 6/17(土)14:00
 全席指定 一般 3,700円/横浜市民 3,500円/EX(補助席・見切れ席) 2,000円/学生 1,500円

劇団かかし座×さくらプラザ
こどもの日!特別公演 ふしぎの国のアリス **まもなく予約開始**

出演:劇団かかし座

会場:ホール
 5/5(金・祝)14:00

全席指定 大人 2,000円(中学生以上) / 子ども 1,000円(0歳~小学生)

共催 コンセール・アミティエ **好評発売中**
第50回 音楽サロン plus
 ～心で聴き、心で歌う～ 50回記念 Special

出演:吉府 充希子(ソプラ)、高木 凜々子(ヴァイオリン)、横山 美里(ピアノ)

会場:ホール
 3/28(火)14:00
 全席指定 一般 2,000円 / 高校生以下 1,000円
 ※静かに聴ける5歳以上のお子様

名曲サロンシリーズ Vol.36~Vol.38 **らららん♪ドレミ シリーズ Vol.21~Vol.23**

開催日程調整中/情報公開日:4月初旬予定
 会場:リハーサル室予定

開催日程調整中/情報公開日:3月初旬予定
 会場:リハーサル室予定

共催 コンセール・アミティエ **好評発売中**
第51回 音楽サロン plus ~皆さんとご一緒に~

出演:吉府 充希子(ソプラ)、片山 真知子(クラリネット)、鈴木 陽子(ピアノ)

会場:リハーサル室
 5/16(火)①10:45/②14:15
 全席自由 各回 前売 1,000円 / 当日 1,200円

共催 **社会風刺劇集団 ザ・ニュースペーパーLIVE 2023** **好評発売中**

会場:ホール
 4/1(土)①14:00(残席僅少) / ②17:30
 全席指定 各回 4,800円

第10回 区民企画事業 **2022年度 さくらチャレンジプロジェクト 報告会** **申込受付中**

3/24(金) 14:00~17:00 ※終了時間は予定となります。

参加費:無料
 定員30名(先着予約順)
 会場:リハーサル室

「さくらチャレンジプロジェクト報告会とは?」
 「世代間の交流を促す芸術文化事業」をテーマに参加いただいた全9団体による活動を支えるさくらプラザスタッフとの対話形式で振り返ることで、その活動を戸塚区民の方々に共有・還元いたします。
 ※詳細は当館HPをご確認ください。

10周年からその先へ
戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

event@totstuka.hall-info.jp

編集後記
 厳しかった寒さも和らぎはじめ、徐々に春の温かさを感じるようになりました。戸塚区の花である「さくら」の名前をいただいている、さくらプラザで働く身としては、春の訪れは一層嬉しく思います。さくらプラザでは、3月の「春の芸術祭2023」を起点に、開館10周年事業がスタートします!区民の皆様と共に盛り上げていきますので、応援いただければ幸いです。(小野)

感染症対策などの詳細はHPから

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって公演内容の変更、または中止になる場合がございます。

さくらプラザ 検索

https://totstuka.hall-info.jp
 ※通信料が発生します。